

# 株式会社アルプス技研

(東京証券取引所市場第一部 証券コード:4641)



## 2010年12月期(第30期) 第2四半期 決算説明会

---

2010年8月5日

代表取締役社長

牛嶋 素一

# 目次

1. 2010年12月期 第2四半期 業績の概要
2. 2010年12月期 通期業績予想について
3. 2010年12月期 下期の取り組みについて



# 1. 2010年12月期 第2四半期 業績の概要

---

# 【連結】業績ハイライト(第2四半期)

(単位:百万円)

	2009年度 第2四半期	2010年度 第2四半期	増減
売上高	8,382	7,920	△5.5%
営業利益	238	△221	—
経常利益	593	328	△44.6%
当期純利益	271	72	△73.5%
1株あたり当期純利益(円)	24.45	6.49	△17.96
ROE(%)	3.5%	1.0%	△2.5ポイント
フリーキャッシュフロー	△217	542	—



# 【連結】 損益計算書

(単位：百万円)

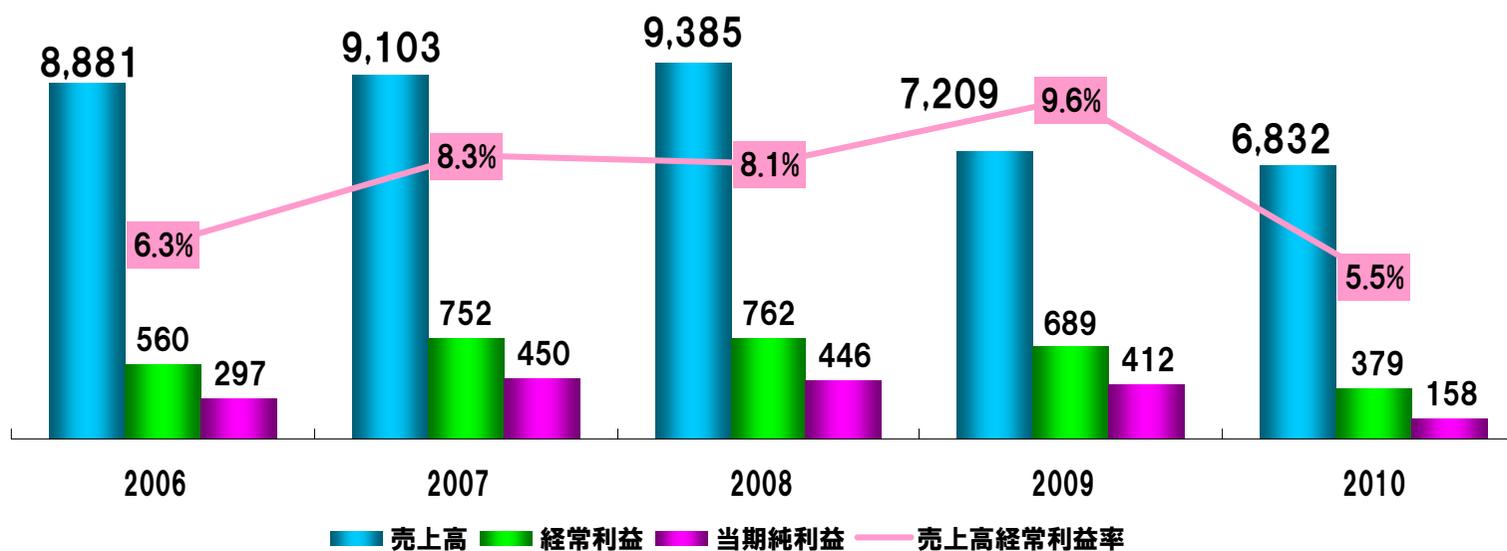
	2009年 第2四半期	2010年 第2四半期	増減率	前期比増減理由
売上高	8,382	7,920	△5.5%	稼働社員数の減少を主因として売上減少
売上原価	6,440	6,512	1.1%	常用雇用型派遣のため、原価率は高止まり
売上総利益	1,942	1,407	△27.6%	
販管費	1,704	1,628	△4.5%	緊急対策等による経費削減、間接社員の減少
営業利益	238	△221	—	
営業外収益	369	564	52.8%	雇用調整助成金515M
営業外費用	13	14	3.7%	
経常利益	593	328	△44.6%	
特別利益	35	1	△94.7%	
特別損失	22	85	282.7%	子会社株式一部譲渡に伴う減損損失81M
税引前当期純利益	606	244	△59.6%	
当期純利益	271	72	△73.5%	

# 【個別】業績ハイライト（第2四半期）

（単位：百万円）

	2009年 第2四半期	2010年 第2四半期	増減率
売上高	7,209	6,832	△5.2%
営業利益	373	△93	—
経常利益	689	379	△45.0%
当期純利益	412	158	△61.4%

（単位：百万円、%）



# 【個別】 損益計算書

(単位：百万円)

	2009年 第2四半期	2010年 第2四半期	増減率	前期比増減理由
売上高	7,209	6,832	△5.2%	稼働社員数の減少を主因として売上減少
売上原価	5,354	5,494	2.6%	賞与上乘せ支給により原価率高止まり
売上総利益	1,855	1,337	△27.9%	
販管費	1,482	1,430	△3.5%	緊急対策等による経費削減、間接社員の減少
営業利益	373	△93	—	
営業外収益	332	487	46.7%	雇用調整助成金438M
営業外費用	17	15	△12.7%	
経常利益	689	379	△45.0%	
特別利益	34	1	△94.7%	
特別損失	11	80	611.1%	子会社株式一部譲渡に伴う出資金評価損77M
税引前当期純利益	712	300	△57.8%	
当期純利益	412	158	△61.4%	

# 【個別】 主要指標

(1~6月までの平均値、社員数は6月末人数)

	2009年 第2四半期	2010年 第2四半期	増減
直接社員数	2,593人	2,324人	△269人
稼働率	77.7%	80.6%	2.9ポイント増
稼働工数	8.12H	8.29H	0.17H増
契約単価	3,490円	3,183円	△307円

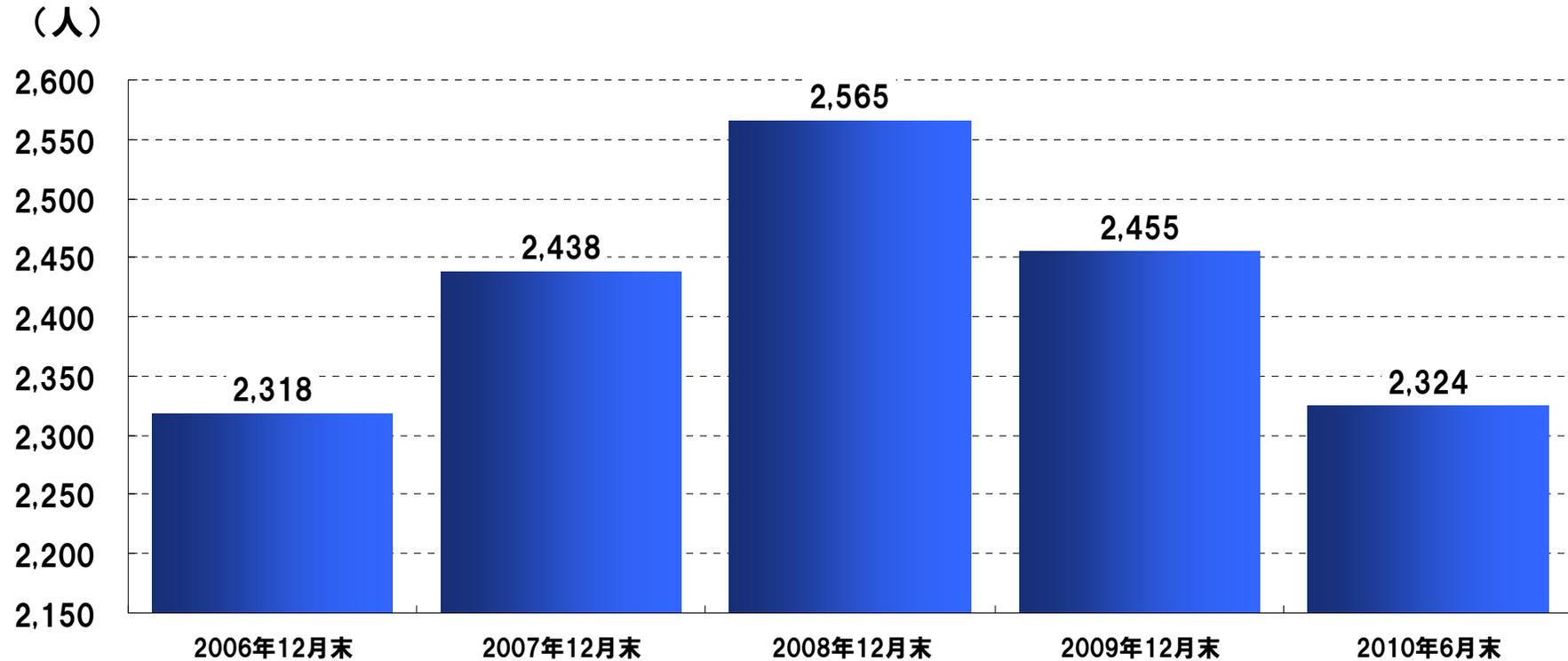
## プラス要因

- ・稼働率が上昇・・・低単価、短期間派遣の要因を除いても上昇傾向にある。
- ・稼働工数が上昇・・・現場は技術者の不足感が高まっており、今後も要請が増える可能性が高い。

## マイナス要因

- ・社員数の減少・・・新卒採用を絞り、中途採用を凍結。
- ・契約単価の下落・・・顧客におけるコストダウンの影響。大口の短期低単価派遣を実施。

# 【個別】 人員の状況

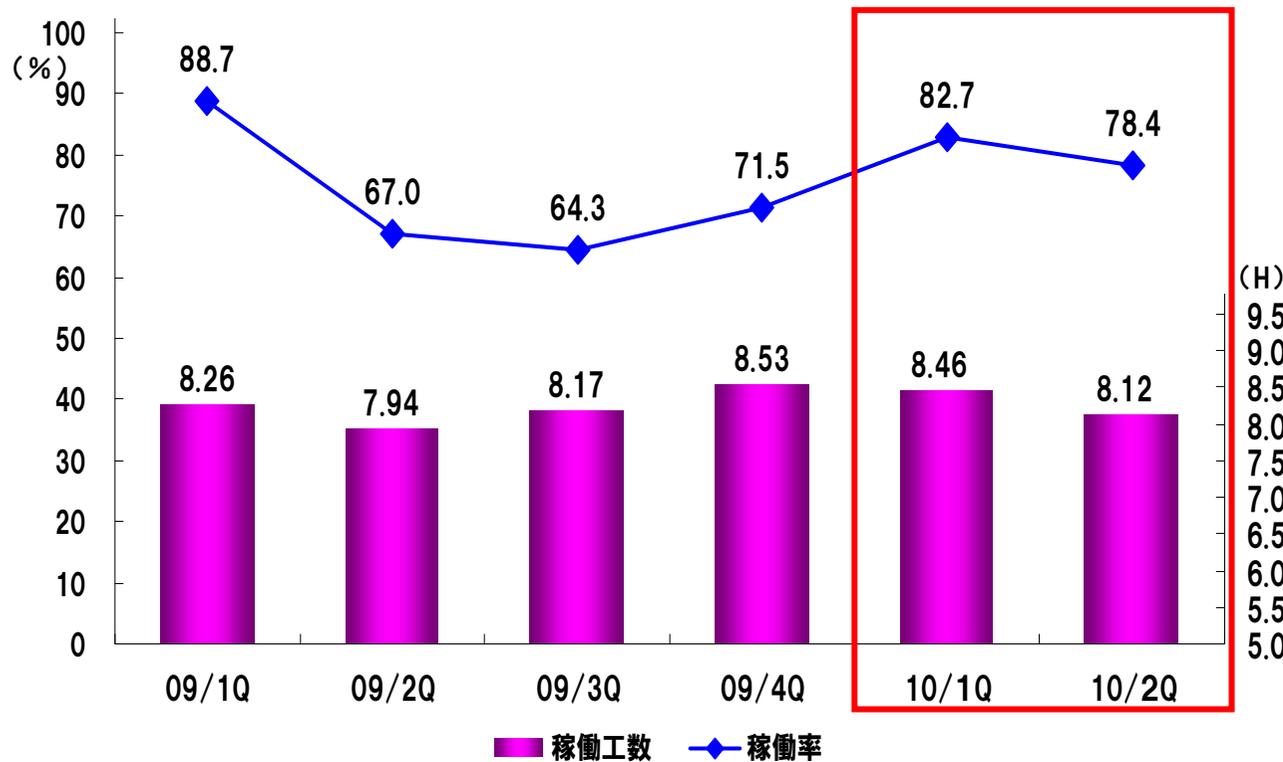


2010年度は、新卒採用数を40名とした。中途採用も2009年以降、凍結中。  
その結果、社員数は2006年度の水準まで減少した。

# 【個別】 稼働率・稼働工数の推移(1)

## 直近の稼働率・稼働工数の推移

※「稼働率」は、新卒を含む全社稼働率(%)、「稼働工数」は1日あたりの稼働時間(H)



第1Q	09年	10年
稼働率	88.7%	82.7%
工数	8.26H	8.46H

第2Q	09年	10年
稼働率	67.0%	78.4%
工数	7.94H	8.12H

### 【稼働率】

2009年第3Qを底に回復基調に入った。

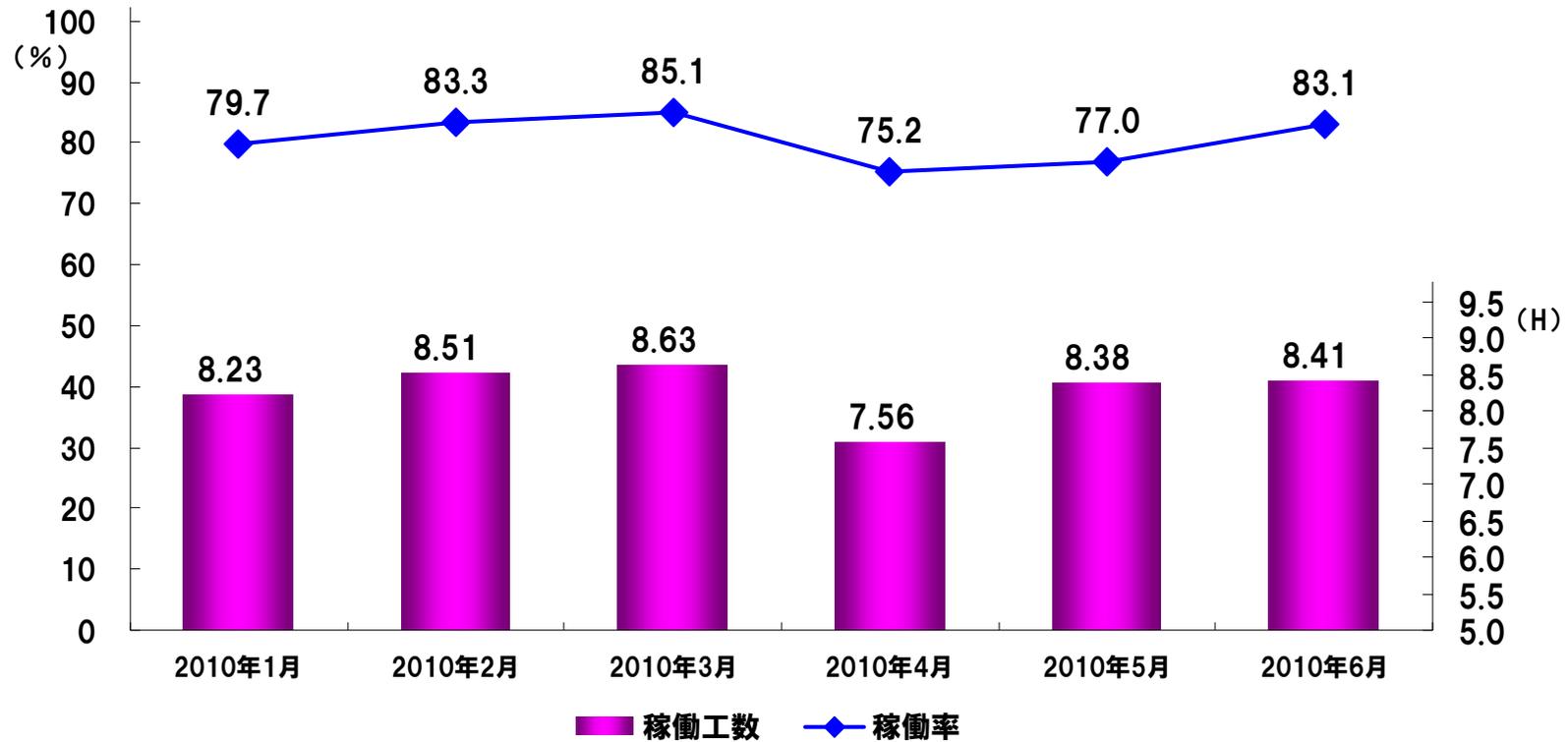
### 【稼働工数】

全般的に回復傾向にある。第1Q、第2Qともに前年実績を上回った。

# 【個別】稼働率・稼働工数の推移(2)

## 2010年上期の稼働率・稼働工数の推移

※「稼働率」は、新卒を含む全社稼働率(%)、「稼働工数」は1日あたりの稼働時間(H)

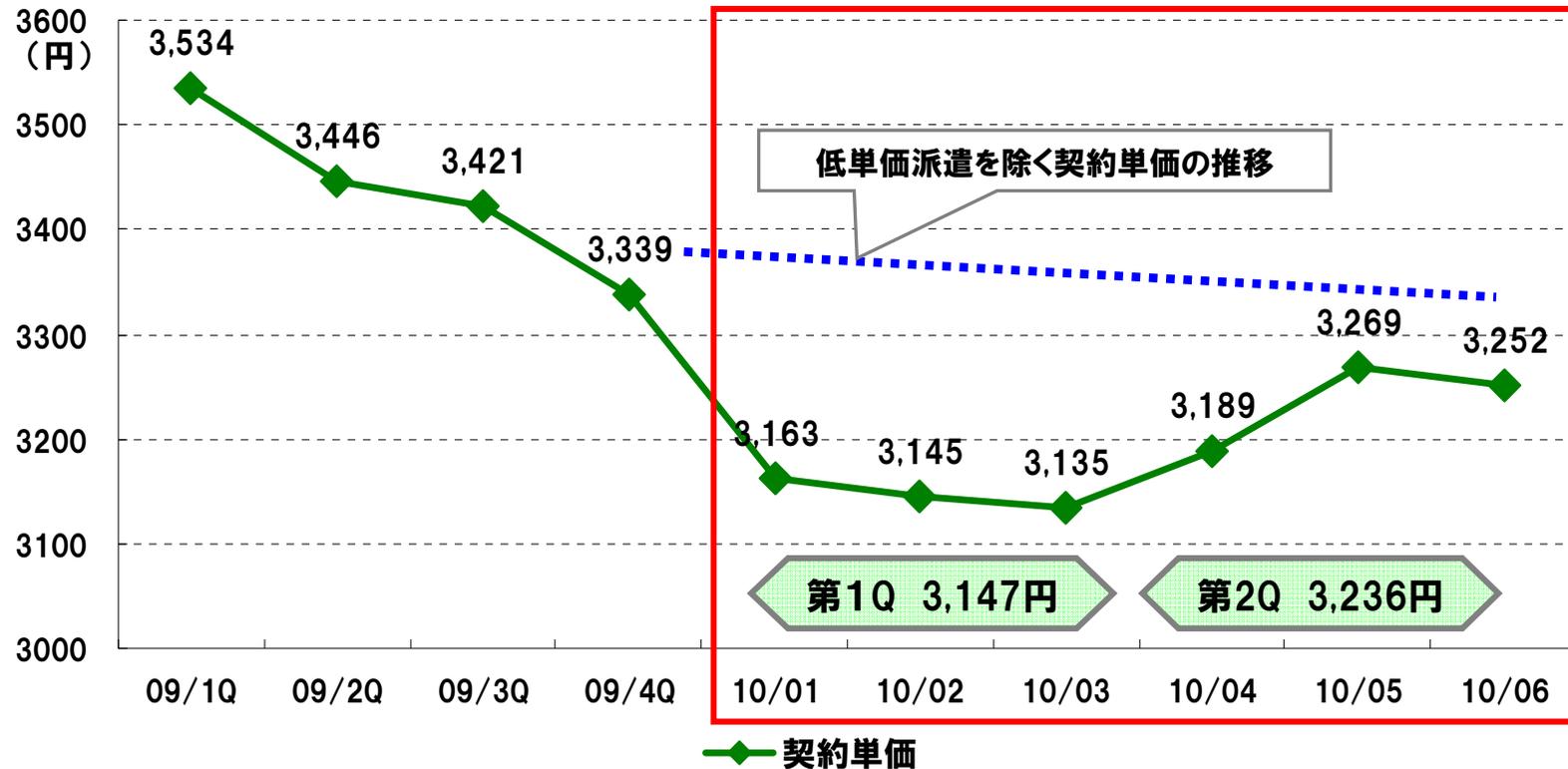


### 【稼働率・稼働工数】

4月は、契約更改、新卒入社のタイミングであるため、一時的に低下したが、その後順調に回復している。

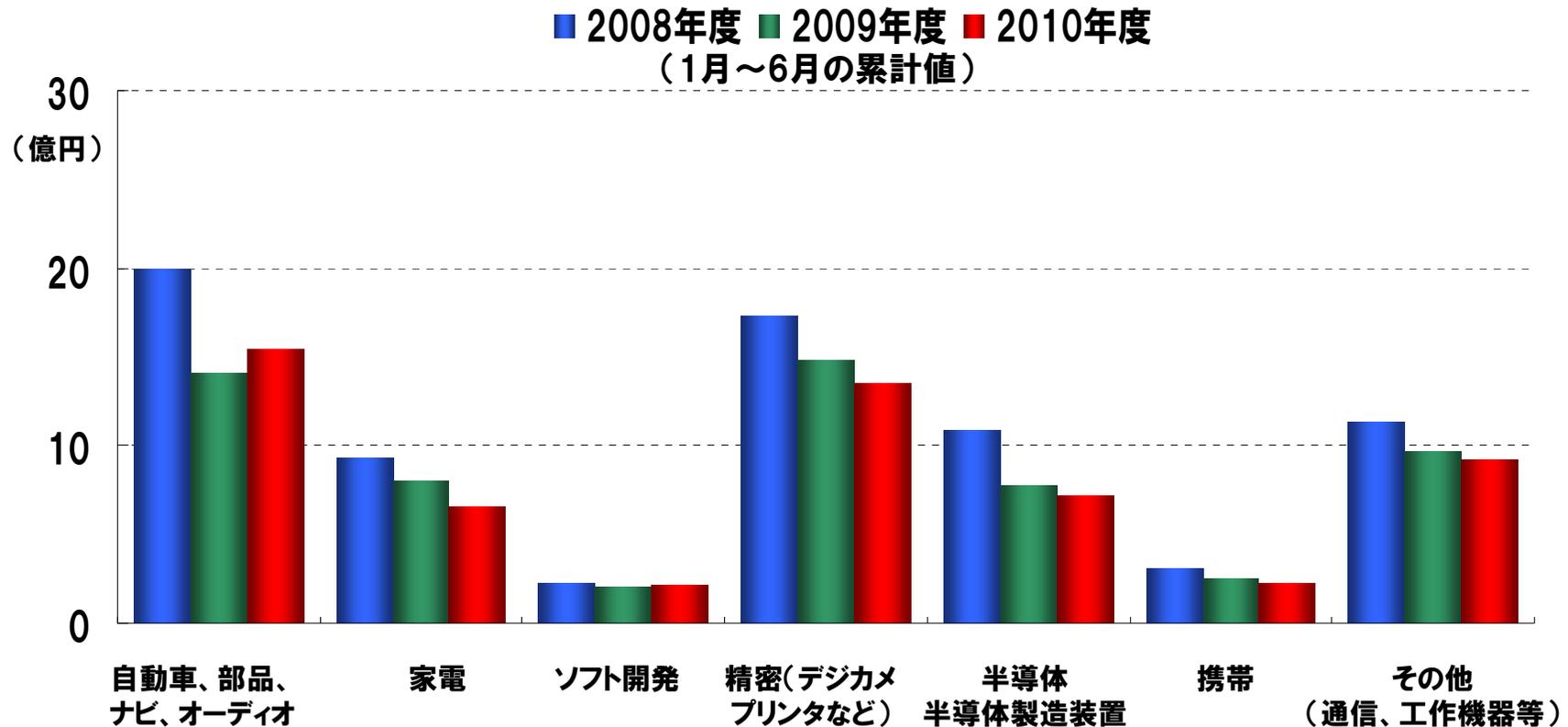
# 【個別】 単価推移

## 直近の契約単価の推移



2009年第4Qより実施している低単価派遣の影響で、第1Qは派遣単価が大幅下落したが第2Q以降は、低単価派遣を順次終了しているため、単価は上昇傾向にある。

# 【個別】 売上上位100社 業種別売上高



全般の売上は下がったものの、業種別売上構成に大きな変化なし。

# 【個別】売上高上位10社

2008年度通期	2009年度通期	2010年度第2四半期
デンソーテクノ	デンソーテクノ	キヤノン
キヤノン	キヤノン	デンソーテクノ
ソニー	セイコーエプソン	ジャトコ
セイコーエプソン	パナソニック	パナソニック
パナソニック	ソニー	セイコーエプソン
日産自動車	シャープ	東京エレクトロンAT
シャープ	パナソニック システムネットワークス	シャープ
富士ゼロックス	富士ゼロックス	パナソニック システムネットワークス
アルパイン	日産自動車	トヨタ自動車
パナソニック システムネットワークス	アルパイン	大分キヤノン
上位10社比率 35.0%	上位10社比率 37.3%	上位10社比率 35.7%
上位20社比率 48.6%	上位20社比率 51.8%	上位20社比率 50.7%

# 2010年度第2四半期 総括

## 【ビジネス環境】

### 1. 市場

- ・製造業各社の業績は回復傾向にあるも、コストダウンへの圧力は依然として強い。
- ・製造現場のみならず、設計開発部門も海外への移転の動き。
- ・次世代エネルギー、エコカー等環境関連の製品開発が活発化。

### 2. 業界

- ・競争激化⇒契約単価の下落 業界再編の動き
- ・改正派遣法の成立が遅れる

## 【取り組み】

### 1. 営業力の強化

- ・提案営業の実施・未開拓地域への進出⇒新規取引先の増加
- ・中国等へ進出する顧客の支援(中国人技術者)

### 2. 技術力の強化

- ・先端技術研修の比重を高める
- ・OJTの増加⇒比較的経験の少ない若年技術者に実践の場を確保

### 3. 間接部門の効率化

- ・経費の徹底削減(緊急対策を含む)、間接業務のグループ共通化



## 2. 2010年12月期 通期業績予想

---

# 連結業績予想

(単位:百万円)

【連結】	実績		予想		内訳			
	2009年度通期		2010年度通期		2010年度上期実績		2010年度下期見込	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	15,568	△30.9%	17,000	9.2%	7,920	△5.5%	9,080	26.3%
営業利益	-465	—	300	—	-221	—	521	—
経常利益	863	△48.9%	1,400	62.2%	328	△44.6%	1,072	297.4%
当期純利益	218	△76.5%	800	265.8%	72	△73.5%	728	—

※2010年2月10日公表の通期業績予想に変更なし。

※業績予想の数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想と異なる場合があります。

# 個別業績予想

(単位:百万円)

【個別】	実績		予想		内訳			
	2009年度通期		2010年度通期		2010年度上期実績		2010年度下期見込	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	13,200	△30.3%	14,000	6.1%	6,832	△5.2%	7,168	19.7%
営業利益	-152	—	200	—	-93	—	293	—
経常利益	1,028	△40.4%	1,300	26.3%	379	△45.0%	921	171.0%
当期純利益	402	△58.2%	700	74.1%	158	△61.4%	542	—

【2010年度下期見込の前提条件】

※2010年2月10日公表の通期業績予想に変更なし。

- 稼働率:85~90%で推移し、期末では90%程度を想定。
- 稼働工数:下期平均で8.4H程度を見込む。
- 契約単価:3,300円台を回復。

※業績予想の数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想と異なる場合があります。

# 配当予想

## 配当基本方針

- ①連結ベースでの配当性向50%を目処とする
- ②安定配当の見地から、年間配当1株20円は堅持する



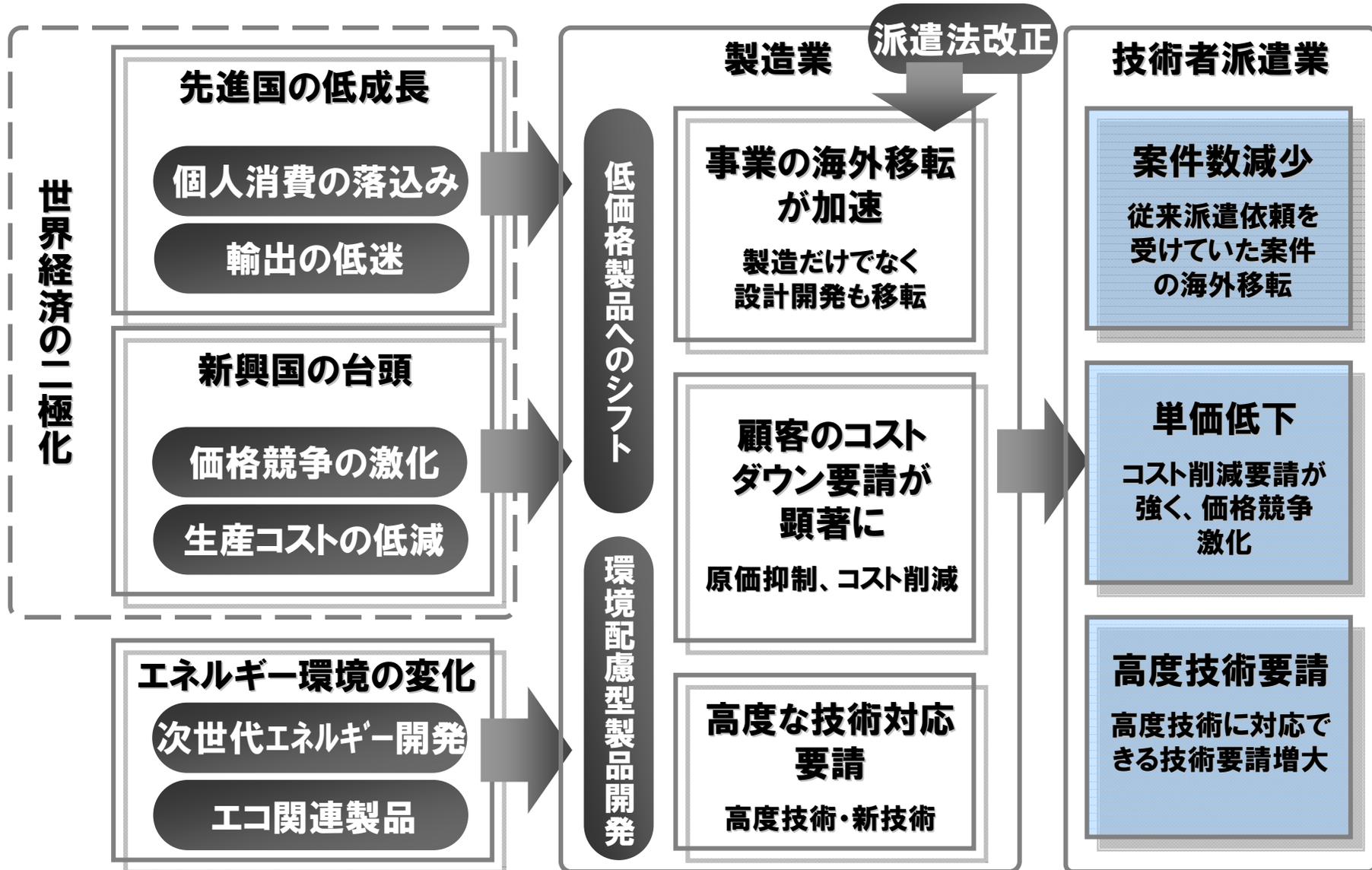
	中間配当	期末配当	年間配当
第30期配当予想	0円	36円	36円



### **3. 2010年12月期 下期の取り組み**

---

# 外部環境の変化



# 国際戦略

## ○アルテック青島の持分譲渡

資本の現地化により、事業の自由度を高めることを目的として、アルテック青島に対する保有株式の86%を、2010年7月1日、現地の法人に譲渡。

## ○今後の中国事業の展開

当社グループ中国事業の中心であるアルテック上海とアルテック青島連携の下、日系企業の多様なニーズに幅広く対応するべく、新たなビジネスを展開。

## ○工程事業

台湾・上海一体となって、東アジア地域を中心に事業展開。



# 成長への課題

## 顧客動向の変化

2008年以前

**未経験のエンジニア**でも、派遣稼働をしながら育てる。  
人材不足で、経験の浅いエンジニアであっても高単価要請。

2009年以降

高度専門知識・経験を有する、**即戦力人材**への要請が増大。

## 成長への課題

### ○即戦力技術者の育成

- ・中途採用による即戦力人材の増強
- ・新卒や経験の浅い社員を対象とした、OJTの場の確保

### ○営業手法の転換

- ・新規成長分野、大手有望企業への営業強化
- ・チーム派遣、請負等の提案営業
- ・海外グループ会社、協力会社との連携による**グローバル案件**への注力